

P1

- 関西大学第一高等学校
 - 2012 03
- 関西大学 総合情報学部 総合情報学科 卒業
 - 2012 04
 - 2017 03
- 関西大学大学院 総合情報学研究科 知識情報学専攻 修士課程 修了見込み
 - 2017 04
 - 2019 03
- TOEIC
 - 565
- その他学歴・職歴・資格・所属学会
 - 電子情報通信学会, 情報処理学会(学生会員)

P2

これまでに最も力を入れてきたこと(サークル活動、アルバイト、その他自己啓発)と、それを通じて得た、成長したと感じていることを記載して下さい。(400字以内)

私がこれまでに最も力を入れてきたことは、大学、大学院での研究活動だと考えます。

学部3年生の時に現在所属している研究室へ配属となり、その後現在に至るまで、後述の研究テーマに沿って研究活動を行ってきました。

研究活動を通して、一つのテーマへの継続した取り組み、自分の考えに疑問を持つ能力を得て、かつ成長できたと考えます。

後述の通り、一つの研究テーマに対して、様々なアプローチをかけていますが、アプローチが増えても中心となる、研究の幹がずれてしまつては、研究から一貫性が失われてしまうと考えます。

そのためにも、大きなテーマを見失わずに、それでいて新しいことに挑戦する、その二つの事柄を、一つの研究テーマへの継続から学ぶことができたと考えます。

また、研究室で議論を交わす中で、まずは自分の考えに疑問を持つべきだと気付きました。

研究室での議論をより有意義なものとするため、時間をおいて自分の考えを見直した時、それは妥当な考えなのか、まだ自分の中で考えを熟成させることができるのではないかと考えました。

あなたの研究室および指導教官を教えてください。未定の場合は「未定」とご記入ください。（150字以内）

研究室：米澤研究室，指導教官：米澤朋子先生

卒業論文や修士論文、博士論文に向けて現在取り組んでいる（または取り組む予定の）テーマを教えてください。（60字以内）

一人対多人数コミュニケーションにおける，パラレルコミュニケーションの支援手法の提案

卒業論文や修士論文、博士論文に向けて現在取り組んでいる（または取り組む予定の）テーマの分野を教えてください。（1項目選択）

研究テーマ（または取り組もうと考えている内容）の概要と、それを研究することの意義について説明してください。また、これまでの研

**究成果（投稿実績、発表実績、表彰実績
など）があれば、あわせてご記入ください。
（400字以内）**

一対多数コミュニケーションにおけるパラレルコミュニケーションの支援として、聴衆の状態を理解しないことにはパラレルコミュニケーションは実現できないと考え、動画処理を用いた聴衆の参加態度の推定と、直感的理解を促す表示手法や、推定結果を利用し、半自律的に聴衆への注意等を行う、足音だけで表現される仮想TAエージェントを提案しています。

この研究により、講演者の多人数聴衆の状態把握や対応への負荷が軽減されることで、聴衆の状態（理解度や意見など）に応じてリアルタイムに講演の流れの変更が可能となり、従来の知識押し付け型から双方向議論型への変遷が実現すると考えます。

これまでに査読付き論文誌（主著1本）、査読付き国際会議（主著1本、共著3本）、査読無し国内研究会（主著6本、共著3本）への投稿を経験しており、修士課程での研究テーマに帝人久村奨学金を、仮想TAエージェントの提案と検証に研究奨励賞を受けてます。

P3

入社後に携わりたい研究開発分野を教えてください。（複数選択可）

- メディア情報（映像・音響・音声）処理

- ヒューマンインターフェース

入社後に携わりたい研究開発テーマとその理由を教えてください。(400字以内)

P4

ここ最近(2016年以降)のNTT研究所が発表したニュースリリースで興味を持ったものがあれば教えてください。また、その理由についても記入してください。(400字以内)